

柔道整復学総論Ⅰ		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351101

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は、「骨折、脱臼、打撲、捻挫等」といった運動器に対する急性の外傷性疾患に対して保存的治療を行うことを業務としている。この授業では、骨の損傷における基礎的知識（様々な骨折の分類法、骨折時の局所または全身の症状、骨折時に起こる合併症、小児骨折と高齢者骨折の特徴、骨折後の治癒経過と予後など）とその評価法や治療法（一般的な整復法、固定法、後療法など）について学習する。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス、柔道整復師の沿革、業務範囲 2. 柔道整復術の概論、損傷時の身体の基礎的状态、損傷時の外力 3. 骨の損傷①（骨の形態と機能） 4. 骨の損傷②（分類） 5. 骨の損傷③（症状） 6. 骨の損傷④（併発症、続発症） 7. 骨の損傷⑤（後遺症） 8. 骨の損傷⑥（小児骨折と高齢者骨折の特徴）	9. 骨の損傷⑦（癒合日数、治癒経過） 10. 骨の損傷⑧（予後、治癒の影響因子） 11. 評価法、治療法①（骨折の整復法） 12. 治療法②（固定法） 13. 治療法③（手技療法、運動療法） 14. 治療法④（物理療法） 15. まとめ
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、運動器に対する急性の外傷性疾患を評価し治療する上で必要な専門的知識や技術の基礎となる総論的事項を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂 7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子的着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツトレーニング論Ⅰ		講義	教授 小笠原 正志
科目カテゴリ	スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11302102 11532105 12352101 12532105

1. 授業のねらい・概要

健康体力づくりの目的でトレーニングを行ったり、競技などにおいて良い成績を残すために、数多く存在するトレーニング方法の中から、適切なトレーニング方法を選択することなど、トレーニング方法が重要視されてきている。そこで、本講義では運動不足が健康に与える影響、適切なトレーニング方法（運動の種類、強度、時間、頻度など）について目的に応じて解説し、適切な運動処方とその指導が可能となるための必要な基礎知識と基礎理論について学習する。

また、トレーニングの原理、原則について基礎から学び、「スポーツトレーニング論Ⅱ」や実技講義に向けての知識を獲得することを目的とする。

2. 授業の進め方

主に、Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画を教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。また、各回に行う課題の実施により、講義の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 人生100年時代におけるトレーニングの意義 3. トレーニングの原理原則 4. 体力の構造とトレーニング 5. 骨格筋の構造 6. 身体の構造①（下肢） 7. 身体の構造②（体幹部） 8. 身体の構造③（上肢）	9. 筋肥大のメカニズム 10. レジスタンストレーニングの基礎理論 11. 下肢のレジスタンストレーニング 12. 体幹部のレジスタンストレーニング 13. 上肢のレジスタンストレーニング 14. レジスタンストレーニングとタンパク摂取 15. まとめ
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：次週授業内容に関する情報を入手し、予習しておくこと。この準備学修には2時間程度が必要である。
- ・復習を兼ねて小テストやレポート課題を行うこともある。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を提出の際、解答などを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツトレーニングに関する基礎知識を獲得し、実践することができる。また、将来スポーツ指導者としての知識を習得する機会とする。

7. 成績評価の方法・基準

モラル、授業態度、取り組み等（50%）・課題レポート（50%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

小笠原正志、「健康生活とスポーツ」、SIS、2024

その他講義資料は必要に応じて配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用と飲食は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、企業における実務経験（地域住民の運動指導）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復学総論Ⅱ		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351102

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は、「骨折、脱臼、打撲、捻挫等」といった運動器に対する急性の外傷性疾患に対して保存的治療を行うことを業務としている。この授業では、関節の損傷（捻挫・脱臼）や筋・腱の損傷などにおける基礎的知識（様々な分類法、局所の症状、合併症、治癒機序と予後など）とその治療法（一般的な整復法並びに初期処置法、後療法など）について理解する。また、インフォームド・コンセント（説明と同意）の基礎となる指導管理についても学習する。

2. 授業の進め方

主にPower Pointを用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じてDVDなどのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス 関節の損傷①（概説、分類）	9. 血管系、リンパ系の損傷（分類、症状）
2. 関節の損傷②（靱帯および関節包の損傷）	10. 皮膚の損傷（受傷原因、治癒機序）
3. 関節の損傷③（関節軟骨およびその他の損傷）	11. 治療法①（脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置）
4. 関節の損傷④（脱臼の分類）	12. 治療法②（後療法）
5. 関節の損傷⑤（脱臼の症状と合併症）	13. 指導管理①（環境、整復）
6. 筋の損傷（分類、合併症、治癒機序）	14. 指導管理②（固定、後療法）
7. 腱の損傷（分類、治癒機序）	15. まとめ
8. 末梢神経の損傷（分類、症状、治癒機序）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、運動器に対する急性の外傷性疾患を評価し治療する上で必要な専門的知識や技術の基礎となる総論的事項を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツトレーニング論Ⅱ		講義	教授 小笠原 正志
科目カテゴリ	スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11302103 11532106 12352102 12532106

1. 授業のねらい・概要

健康体力づくりの目的でトレーニングを行ったり、競技などにおいて良い成績を残すために、数多く存在するトレーニング方法の中から、適切なトレーニング方法を選択することなど、トレーニング方法が重要視されてきている。そこで、本講義では運動不足が健康に与える影響、適切なトレーニング方法（運動の種類、強度、時間、頻度など）について目的に応じて解説し、適切な運動処方とその指導が可能となるための必要な知識と理論について学習する。

また、スポーツ関連のクリニックやスポーツ現場における医療従事者、トレーニング指導者としてトレーニングの理論を学び、「トレーニング演習」などの実技中心講義に向けての知識を獲得することを目的とする。

2. 授業の進め方

主に、Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画を教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。また、各回に行う課題の実施により、講義の理解度を確認しながら展開していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. SAQ トレーニング
2. トレーニングの原理原則	10. ストレッチング
3. 持久的トレーニングの理論	11. スポーツ外傷とスポーツ障害
4. 持久的トレーニングの方法	12. リハビリテーション
5. 持久的トレーニングと高地順化	13. 目標設定
6. 体幹トレーニング	14. 動機づけを高める方法
7. パワートレーニングの理論	15. まとめ
8. パワートレーニングの方法	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習：次週授業内容に関する情報を入手し、予習しておくこと。この準備学修には2時間程度が必要である。
- ・復習を兼ねて小テストやレポート課題を行うこともある。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を提出の際、解答などを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツトレーニングに関する基礎および応用知識を獲得し、自分のトレーニングを実践することができる。また、将来スポーツ指導者としての知識を習得する機会とする。

7. 成績評価の方法・基準

モラル、授業態度、取組み等（50%）・課題レポート（50%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

小笠原正志：「健康生活とスポーツ」、SIS、2024
 その他講義資料は必要に応じて配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用と飲食は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、企業における実務経験（地域住民の運動指導）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツリハビリテーション概論		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351201

1. 授業のねらい・概要

スポーツ外傷・障害からの復帰に際して、医療機関等で行われるメディカルリハビリテーションに加えて、フィールドにおけるアスレティックリハビリテーションが必要となる。アスレティックリハビリテーションは、スポーツ外傷・障害が起こってから、スポーツ活動時に要求される運動能力を解剖機能系、呼吸器系、筋骨格系および代謝系を含めて元の競技スポーツに耐え得るだけのレベル以上に戻すとともに、さらには再発を予防する事を目的としている。実際のスポーツ現場では、様々な背景を有する競技選手（育成期から成人まで）を対象とするため、幅広い運動生理学的な基礎知識（呼吸循環器系、筋骨格系、代謝系、成長期の生理学的特徴）が必要となるとともに、スポーツリハビリテーションに従事する者の役割に対する理解も必要になる。この講義ではスポーツリハビリテーションの基本的な知識を上記の観点から理解し、スポーツリハビリテーションのスキルの基盤作りを体系的に行うとともに、スポーツ現場に生かすため知識を理解していく。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。

3. 授業計画

1. スポーツリハビリテーション従事者の役割	9. スポーツリハビリテーションの実際の流れ
2. スポーツ外傷・障害の予防	10. 運動療法の基礎（関節可動域回復）
3. アスレティックリハビリテーションの定義	11. 運動療法の基礎（筋力回復）
4. メディカルリハビリテーションの概要	12. 運動療法の基礎（呼吸循環器系・代謝系）
5. アスレティックリハビリテーションの概要	13. 運動療法の基礎（神経筋協調性回復）
6. 重症外傷と救急処置	14. 物理療法の基礎（温熱療法・冷却療法）
7. コンディショニング	15. スポーツリハビリテーションのシミュレーション
8. 測定と評価	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師およびトレーナーとしてスポーツ現場において実施するスポーツリハビリテーションに必要な最低限の知識および方法論の習得に努め、今後の授業である「スポーツ傷害」「スポーツリハビリテーション」へとつなげる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

成長期スポーツ傷害		講義	講師 小向 啓介
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351301

1. 授業のねらい・概要

発育発達期の子ども達のスポーツに関与する指導者は、「成長期」について十分な注意が必要であると考えらる。なぜなら、成長のスピードや時期には個人差があるということを十分に理解しなければならない。

本講義では、発育発達期の特徴を把握、成長途上の著しい身体変化に起因するスポーツ傷害の原因や、症状を正しく評価し、スポーツ指導者として留意すべき点、対処法について理解していく。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、適宜、症例や論文のから具体的例を取り上げて、パワーポイントで説明を行う。また、理解の定着を図るため、講義の途中でレポートや小テスト、グループワークなどを実施する。

3. 授業計画

1. ガイダンス テキストの内容と講義形式について	8. 下肢の成長期スポーツ傷害 (発育期の膝関節障害)
2. 体幹部の成長期スポーツ傷害 (腰椎分離症)	9. 下肢の成長期スポーツ傷害 (オスグッド・シュラッター病、ジャンパー膝)
3. 上肢の成長期スポーツ傷害 (腱板損傷、リトルリーガーズ肩)	10. 下肢の成長期スポーツ傷害 (分裂膝蓋骨、腸脛靭帯炎、鷲足炎)
4. 上肢の成長期スポーツ傷害 (リトルリーガーズ肘)	11. 下肢の成長期スポーツ傷害 (膝蓋大腿関節障害、シンスプリント)
5. 上肢の成長期スポーツ傷害 (野球肘、テニス肘、パンナー病)	12. 下肢の成長期スポーツ傷害 (扁平足障害)
6. 上肢の成長期スポーツ傷害、振り返り、レポート (TFCC)	13. 下肢の成長期スポーツ傷害振り返り、レポート
7. 下肢の成長期スポーツ傷害 (鼠径部痛症候群、股関節唇損傷)	14. 骨端症 (疾患名、発生部位、症状など)
	15. まとめ、振り返りテスト

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の授業内容を復習しておく。復習には教科書の精読ならびに作成したノートを参考にする。なお、これらの準備学修には、1時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、重要箇所について解説を行う。訂正箇所があった場合は後日、改めて提出日を設定する。

6. 授業における学修の到達目標

発育発達期の特徴を把握、成長途上の著しい身体変化に起因するスポーツ傷害の原因や症状を正しく評価し、スポーツ指導者として留意すべき点、予防法、対処法について理解する。また、講義の一部は柔道整復師国家試験に出題される範囲（例として骨端症や四肢軟部組織損傷）も含まれるので、内容を十分に理解する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（20%）、小テスト（40%）およびレポート審査（40%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②論文などの資料は適宜配布する。

9. 受講上の留意事項

授業内容にはエクササイズテクニックを伝えることもある。また、スポーツにおける競技特性について興味や関心があることが望ましい。成長期のスポーツ傷害を学ぶ上であらかじめスポーツのことを広く知ると良いと考える。

また、授業内容の一部は柔道整復師国家試験に絡んでいるので授業内容の広い理解を求める。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は柔道整復師免許ならびに日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーやトレーニング指導資格を有し、整形外科、接骨院の勤務およびトレーナー業務に従事した実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ傷害と画像診断		講義	講師 山本 雅貴
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351302

1. 授業のねらい・概要

骨折や脱臼、軟部組織損傷の評価には、発生機序や臨床症状の理解に加え、X線画像、超音波画像、MRI画像などを用いた画像所見を総合的に把握することが重要である。本科目では、代表的なスポーツ傷害を対象に、各種画像から病態がどのように描出されるのかを理解し、臨床に必要な画像評価能力を身につけることを目的とする。

2. 授業の進め方

Power Point ならびに配布資料を用いた講義形式となる。

3. 授業計画

1. X線画像の基礎	9. 股関節のスポーツ傷害と画像評価
2. 超音波画像の基礎	10. 膝関節の解剖
3. MRI画像の基礎	11. 膝関節のスポーツ傷害と画像評価
4. 肩関節の解剖	12. 足関節の解剖
5. 肩関節のスポーツ傷害と画像評価	13. 足関節のスポーツ傷害と画像評価
6. 肘・手関節の解剖	14. 脊椎の解剖
7. 肘・手関節のスポーツ傷害と画像評価	15. 脊椎のスポーツ傷害と画像評価
8. 股関節の解剖	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各関節の解剖をよく理解しておくこと。加えて、代表的なスポーツ傷害の概要を調べておくこと（2時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントを解説する。

6. 授業における学修の到達目標

X線測定や超音波測定、そしてMRI測定に関する臨床的な基礎知識を習得し、正常画像を理解する。加えて、代表的な運動器のスポーツ傷害について、画像所見と臨床症状を関連づけて理解できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

施術の適応と医用画像の理解 南江堂（公社）全国柔道整復学校協会 細野昇・川口央修
その他の必要資料は授業中に適宜配布する。

9. 受講上の留意事項

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床柔道整復学Ⅰ		講義	講師 小向 啓介
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361101

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師として、頭部・体幹部の損傷に対する理解は臨床的意味でも非常に重要である。この臨床柔道整復学Ⅰでは、頭部・体幹部の骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して、各部位の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。加えて、成長期の側弯症・腰椎分離症、脳震盪についても学ぶことにより、より医療現場・スポーツ現場に対して応用可能な知識も身につける。本講義では各部位の臨床と機能解剖を結びつけて理解することにより、各外傷・障害の発生機序、症状および整復方法等を体系的に理解するとともに、臨床現場への応用につながる知識を身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 頸椎の骨折・脱臼
2. 胸郭・脊柱の解剖、構造	10. 胸椎・腰椎の骨折・脱臼
3. 肋骨骨折	11. 軟部組織損傷（頸部）
4. 胸骨骨折	12. 軟部組織損傷（胸部・腰部）
5. 顎関節脱臼	13. 頸椎椎間板ヘルニア、腰椎椎間板ヘルニア
6. 顎関節症	14. 側弯症、腰椎分離症、脊柱管狭窄症
7. 頭蓋骨骨折	15. 脳震盪
8. 顔面部の骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容について教科書を精読し理解を深める。またノートや配布プリントを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて理解の習熟を得られるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（10％）小テスト（20％）定期試験の結果（70％）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ① 柔道整復学・理論編改訂 7 版 社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂。
- ② 必要に応じて、解剖学・改訂第 2 版 社団法人全国学校協会 医歯薬出版などを用いる。
- ③ 必要に応じて、プリントなどを配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話・スマートフォンの使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科，接骨院，トレーナー業務における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床柔道整復学Ⅱ		講義	准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361201

1. 授業のねらい・概要

臨床柔道整復学Ⅱで学ぶ肩周囲から前腕骨骨幹部までの骨折および脱臼は、評価や治療を誤ると重篤な機能障害を残すことが多い。そのため、基礎柔道整復学総論の知識を把握した上で、受傷機転、症状、治療法、合併症について理論的に学び、臨床現場への応用につながる知識を身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

柔道整復学・理論編改訂7版の内容に沿った講義形式を基本とする。毎回の講義ではpower pointを用いたスライドによる授業を行い、分かりにくい、もしくは理解しにくい箇所は、画像および動画などを用いて説明する。

3. 授業計画

1. 鎖骨骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 2. 肩甲骨骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 3. 上腕骨近位端部骨折（大結節・小結節骨折、骨折の分類について） 4. 上腕骨外科頸骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 5. 上腕骨骨幹部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）・小テスト 6. 上腕骨顆上骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 7. 上腕骨外顆・内側上顆骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 8. 橈骨近位端部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	9. 肘頭骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 10. 橈骨単独骨折・前腕骨骨幹部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）・小テスト 11. Monteggia 脱臼骨折・Galeazzi 脱臼骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症） 12. 胸鎖・肩鎖関節脱臼（受傷機転、症状、治療法、合併症） 13. 肩関節脱臼（受傷機転、症状、治療法、合併症） 14. 肘関節脱臼（受傷機転、症状、治療法、合併症） 15. まとめ（臨床現場でよく遭遇することの多い外傷や国家試験によく出題されている内容についての説明）・小テスト
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやテキストを使用し復習しておくこと。なお、これらの準備学修には2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

小テスト（30%）、定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版 社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
- ②柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会 南江堂
- ③運動器疾患ワークブック 医歯薬出版
- ④必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

私語およびスマートホンの使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床柔道整復学Ⅲ		講義	准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361202

1. 授業のねらい・概要

臨床柔道整復学Ⅲで学ぶ肩周囲から前腕骨骨幹部までの骨折および脱臼は、評価や治療を誤ると重篤な機能障害を残すことが多い。そのため、基礎柔道整復学総論の知識を把握した上で、受傷機転、症状、治療法、合併症について理論的に学び、臨床現場への応用につながる知識を身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

柔道整復学・理論編改訂6版の内容に沿った講義形式を基本とする。毎回の講義ではpower pointを用いたスライドによる授業を行い、分かりにくい、もしくは理解しにくい箇所は、画像および動画などを用いて説明する。

3. 授業計画

1. 橈骨遠位端伸展型骨折（受傷機転、症状）	9. 中手骨骨幹部・基部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）
2. 橈骨遠位端伸展型骨折（治療法、合併症）	10. 基節骨頸部・基部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）・小テスト
3. 橈骨遠位端屈曲型骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	11. 基節骨骨幹部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）
4. Barton 骨折・Chauffeur 骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	12. 末節骨骨幹部骨折・中節骨骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）
5. 舟状骨骨折（受傷機転、症状）・小テスト	13. マレットフィンガー（受傷機転、症状、治療法、合併症）
6. 舟状骨骨折（治療法、合併症）その他の手根骨骨折	14. 手部・指部脱臼（受傷機転、症状、治療法、合併症）
7. Bennett 骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	15. まとめ（臨床現場で遭遇することの多い外傷や国家試験によく出題されている内容についての説明）・小テスト
8. 中手骨頸部骨折（受傷機転、症状、治療法、合併症）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやテキストを使用し復習しておくこと。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

小テスト（30%）、定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②柔道整復学・実技編改訂2版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ③運動器疾患ワークブック 医歯薬出版
- ④必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

私語およびスマートホンの使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床柔道整復学Ⅳ		演習	非常勤講師 林 勇磨
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361301

1. 授業のねらい・概要

本講義では、下肢の骨折について総合的な知識の習得を目指す。骨盤から足部にいたる各骨折の基礎（分類、症状、合併症）、治療法（整復法、固定法、後療法など）、を学習する。併せて下肢の骨折に関わる人体解剖についても復習する。

2. 授業の進め方

主に PowerPoint および配布資料を用いて講義を行う。必要に応じて画像、動画等を用いて解説する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 骨折総論	9. 下腿骨近位部骨折
2. 骨盤の機能解剖	10. 下腿骨骨幹部骨折 小テスト
3. 骨盤骨骨折	11. 下腿骨疲労骨折
4. 大腿骨の機能解剖 大腿骨近位部骨折	12. 足関節の機能解剖
5. 大腿骨骨幹部骨折 小テスト	13. 果部骨折
6. 大腿骨遠位部骨折	14. 脆弱性骨折 足部の骨の機能解剖 小テスト
7. 膝蓋骨の機能解剖 膝蓋骨骨折	15. まとめ
8. 下腿骨の機能解剖	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に小テストを行い、終了後に回答のポイントおよび出題意図を解説する。

試験実施後に問題の解説を記載したプリントを配布する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷の発生メカニズムからそれぞれのタイプ、整復法、症状、合併症などを説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

小テスト(30%) 期末試験(70%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

柔道整復学・理論編 改訂第7版, 全国柔道整復学校協会監修, 南江堂, 2022年

柔道整復学・実技編 改訂第2版, 全国柔道整復学校協会監修, 南江堂, 2012年

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用, 飲食, 帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は, 医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床柔道整復学Ⅴ		演習	非常勤講師 林 勇磨
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361302

1. 授業のねらい・概要

本講義では、下肢の骨折、脱臼について総合的な知識の習得を目指す。股関節から足部にいたる各骨折、脱臼の基礎（分類、症状、合併症）、治療法（整復法、固定法、後療法など）を学習する。併せて下肢の骨折、脱臼に関わる人体解剖についても復習する。

2. 授業の進め方

主に PowerPoint および配布資料を用いて講義を行う。必要に応じて画像、動画等を用いて解説する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 足根骨の骨折①（距骨、踵骨）	9. 膝蓋骨脱臼
2. 足根骨の骨折②（舟状骨、立方骨、楔状骨）	10. 膝関節脱臼 小テスト
3. 中足骨の骨折	11. 足関節脱臼 足部の関節の機能解剖
4. 足趾の骨折	12. 足根骨の脱臼
5. 脱臼総論 小テスト	13. 足趾の脱臼
6. 股関節の機能解剖	14. 下肢外傷の合併症 小テスト
7. 股関節脱臼	15. まとめ
8. 膝関節の機能解剖	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を復習しておく（1 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に小テストを行い、終了後に回答のポイントおよび出題意図を解説する。
試験実施後に問題の解説を記載したプリントを配布する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷の発生メカニズムからそれぞれのタイプ、整復法、症状、合併症などを説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

小テスト(30%) 期末試験(70%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

柔道整復学・理論編 改訂第 7 版, 全国柔道整復学校協会監修, 南江堂, 2022 年
柔道整復学・実技編 改訂第 2 版, 全国柔道整復学校協会監修, 南江堂, 2012 年

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用, 飲食, 帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は, 医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ傷害Ⅰ		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361303

1. 授業のねらい・概要

医療現場ならびにスポーツ現場で遭遇することが多いであろう下肢の傷害は、治療を誤ると後遺症になり、選手はスポーツ復帰が遅れてします。したがって、的確に傷害を評価し、治療することは重要である。本授業では、下肢のスポーツ傷害の特徴や発生機転、症状、治療法、合併症などを理論的に学び、臨床現場への応用につながる知識を身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. オリエンテーション 2. 股関節軟部損傷① 鼠径部痛症候群、弾発股（ばね股）、梨状筋症候群 3. 股関節軟部損傷② ペルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎 4. 股関節軟部損傷③ 変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、股関節の拘縮 5. 大腿部の軟部組織損傷 大腿部打撲、大腿部の肉ばなれ、大腿部骨化性筋炎 6. 膝関節部の軟部組織損傷① 発育期の膝関節障害、半月板損傷 7. 膝関節部の軟部組織損傷② 靱帯損傷 8. 膝関節部の軟部組織損傷③ 腸脛靱帯炎、膝蓋大腿関節障害	9. 膝関節の軟部組織損傷④ 膝周囲の関節包、滑液包の異常、変形性膝関節症 10. 下腿部の軟部組織損傷① コンパートメント症候群、アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂 11. 下腿部の軟部組織損傷② 腓骨筋腱脱臼、下腿部のスポーツ障害 12. 足部の軟部組織損傷① 足関節捻挫 13. 足部の軟部組織損傷② 足部の捻挫 14. 足部の軟部組織損傷③ 扁平足障害 15. 後足部の有痛性疾患 前足部の有痛性疾患
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ傷害Ⅱ		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361304

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師にとって医療現場、スポーツ現場に従事する際には、実際に骨折・脱臼のみならず多くの軟部組織損傷を扱うこととなる。このスポーツ傷害Ⅱでは、これまでに学習した上肢部の骨折・脱臼に加えて、主に医療現場およびスポーツ現場で発生が多い軟部組織損傷を学んでいく。具体的に、上肢部軟部組織損傷に関する病態・症状、鑑別・評価方法、応急処置、保存療法（または観血的療法）、およびリハビリテーションに関して知識を習得し、理論的に学んでいく。また、本講義では各部位の臨床と機能・解剖を結びつけて理解することにより、各外傷・障害を体系的に理解するとともに、スポーツリハビリテーションⅡと組み合わせていくことで、臨床現場およびスポーツ現場への応用につながる知識を総合的に身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 上腕骨外側上顆炎・内側上顆炎、パンナー病、変形性関節症
2. 肩関節周囲の機能・解剖	10. 前腕コンパートメント症候群, intersection syndrome,
3. 腱板断裂・上腕二頭筋腱損傷	11. 手関節周囲の機能・解剖
4. スポーツ障害①（ベネット損傷, SLAP 損傷, インピンジメント症候群）	12. 手関節捻挫, TFCC 損傷, 手根不安定症, ド・ケルバン病, キーンバック病
5. スポーツ障害②（リトルリーガー肩）, その他の疾患（動揺性肩関節, 肩関節周囲炎）	13. マーデルング変形, ステナー損傷, その他の靭帯損傷, ロッキングフィンガー, ばね指, 手指の変形
6. 肘関節周囲の機能・解剖	14. 絞扼性神経障害（肩甲部, 上肢部）
7. 肘関節内側側副靭帯損傷・肘関節後外側回旋不安定症	15. まとめ
8. 野球肘	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂 7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復演習Ⅰ		演習	講師 山本 雅貴
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361305

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師国家試験で出題される科目の中で出題率の高い「生理学」の理解を深めることを目的とする。そのため、国家試験の出題率の高い項目や学習のポイントを理解し、キーワードとなる重要語句の確認と暗記すべき項目の整理を行う。

2. 授業の進め方

関連する科目として「人体機能学Ⅰ・Ⅱ」「人体機能学実習」で学んだ学習内容から、特に国家試験での出題傾向の高い項目を取り上げて授業を実施する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 生理学の基礎	8. 内分泌系の機能
2. 血液の生理学	9. 生殖
3. 循環の生理学	10. 骨の生理学, 体液の生理学
4. 呼吸の生理学	11. 神経の基本的機能
5. 消化と吸収	12. 神経系の機能
6. 栄養と代謝, 体温とその調節	13. 筋肉の機能
7. 尿の生成とその排泄	14. 感覚の生理学
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布する国家試験の過去問題を復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、国家試験で出題率の高いキーワードを理解し、国家試験の合格基準を満たす知識レベルに到達することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修,『生理学 改訂第4版』, 南江堂, 2020 年
必要に応じて各項目の重要ポイントを補足資料として配布する。

9. 受講上の留意事項

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。

柔道整復演習Ⅱ		演習	講師 山本 雅貴
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361306

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師国家試験で出題される科目の中で出題率の高い「解剖学」の理解を深めることを目的とする。そのため、国家試験の出題率の高い項目や学習のポイントを理解し、キーワードとなる重要語句の確認と暗記すべき項目の整理を行う。

2. 授業の進め方

関連する科目として「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体構造学実習」で学んだ学習内容から、特に国家試験での出題傾向の高い項目を取り上げて授業を実施する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 人体解剖学概説（細胞，組織，器官，発生）	8. 呼吸器
2. 運動器①（頭部・体幹）	9. 泌尿器・生殖器
3. 運動器②（上肢）	10. 内分泌器
4. 運動器③（下肢）	11. 神経系①（中枢神経）
5. 循環器	12. 神経系②（末梢神経）
6. 消化器①（消化管）	13. 感覚器
7. 消化器②（付属器官）	14. 体表解剖，映像解剖
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布する国家試験の過去問題を復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では，国家試験で出題率の高いキーワードを理解し，国家試験の合格基準を満たす知識レベルに到達することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修，『解剖学 第2版』，医歯薬出版，2008 年
必要に応じて各項目の重要ポイントを補足資料として配布する。

9. 受講上の留意事項

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。

柔道整復実技Ⅰ（包帯）		実習	准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371101

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師が行う治療法には主に整復法、固定法、後療法の3種類がある。この授業では、初めに固定における基本的事項（固定の目的・範囲・肢位、固定材料の種類など）を学んだ後、基本包帯法を習得し、さらにそれらを組み合わせた身体各部位別の包帯法の実習へと進めていく。また、最後には次の学年以降の実技授業への橋渡しとして、冠名包帯法や副子などの固定材料を用いたより実践的な固定法についても取り組む。

2. 授業の進め方

担当教員によるデモンストレーションの後、学生同士が2人1組のペアとなり反復練習を実施する。この間、包帯の技術習得において重要なポイントである機能性（固定範囲と肢位、圧迫圧）、外観（見た目の美しさ）、スピード（施行時間）などの完成度を高めるための指導を行う。また、毎回の授業終了後には「包帯実習レポート」を作成する。

3. 授業計画

1. ガイダンス、包帯の巻き方の基礎と巻き戻し	9. 部位別包帯法⑤（膝関節部、下腿部）
2. 基本包帯法①（環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯）	10. 部位別包帯法⑥（足関節部、足指部）
3. 基本包帯法②（亀甲帯、麦穂帯）	11. 部位別包帯法⑦（胸・背部、腰部）
4. 部位別包帯法①（肩関節部）	12. 冠名包帯法（デゾー包帯）
5. 部位別包帯法②（肘関節部、前腕部）	13. 固定材料を用いた固定①（クラメル副子）
6. 部位別包帯法③（手関節部、手指部）	14. 固定材料を用いた固定②（ギプス）
7. 中間試験	15. まとめ（部位別包帯法およびクラメル副子、ギプス固定におけるポイントの復習）
8. 部位別包帯法④（股関節部、大腿部）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

学生は、互いの包帯技術を高めるために、毎授業で「包帯実習チェック表」に重要ポイントを記載してもらい、それを確認しながら復習し、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では固定法の基本となる巻軸包帯を用いた関節固定について実技実習を行い、その基礎的技術を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

中間試験（50%）並びに定期試験（50%）の結果より評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①（社）全国柔道整復学校協会監修、包帯固定学改訂第2版、（株）南江堂、2017年
- ②その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①毎回の授業時にはテキスト並びに固定材料（包帯など）を必ず持参すること。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス、指輪、ネックレス）は着用しないこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復実技Ⅱ（上肢①）		講義	准教授 伊藤 新 講師 山本 雅貴
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371201

1. 授業のねらい・概要

柔道整復実技Ⅱ（上肢①）では、臨床柔道整復学Ⅱで学んだ知識を実技で実践する。肩周囲から前腕骨骨幹部までの骨折および脱臼の評価法や整復法、固定法などの目的や意義を理解し、実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. 鎖骨骨折 2. 肩甲骨骨折 3. 上腕骨近位端部骨折 4. 上腕骨外科頸骨折 5. 上腕骨骨幹部骨折 6. 上腕骨顆上骨折 7. 上腕骨外顆骨折・内側上顆骨折 8. 橈骨近位端部骨折	9. 肘頭骨折 10. 橈骨単独骨折・前腕骨骨幹部骨折 11. Monteggia 脱臼骨折・Galeazzi 脱臼骨折 12. 胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼 13. 肩関節脱臼 14. 肘関節脱臼 15. まとめ（臨床の現場でよく用いられている治療法と国家試験によく出題されるポイントを解説する）
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各外傷の受傷機転や症状、治療法、合併症を運動器疾患ワークブックを中心に学習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷の評価法や、整復法および固定法を実践し、その目的と意義を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（レポート）の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②運動器疾患ワークブック 医歯薬出版
- ③必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ボロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス、指輪、ネックレス）は着用しないこと。
- ④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復実技Ⅲ（上肢②）		実習	准教授 伊藤 新 講師 山本 雅貴
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371202

1. 授業のねらい・概要

柔道整復実技Ⅲ（上肢②）では、臨床柔道整復学Ⅲで学んだ知識を実技で実践する。肩周囲から前腕骨骨幹部までの骨折および脱臼の評価法や整復法、固定法などの目的や意義を理解し、実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. 橈骨遠位端部伸展型骨折（コットンローダー肢位での固定法）	9. 中手骨骨幹部・基部骨折
2. 橈骨遠位端部伸展型骨折（シュガートング固定）	10. 基節骨基部骨折
3. 橈骨遠位端部屈曲型骨折	11. 基節骨骨幹部骨折
4. Barton 骨折・Chauffeur 骨折	12. 末節骨骨幹部骨折・中節骨骨折
5. 舟状骨骨折	13. マレットフィンガー
6. 有鉤骨鉤部骨折	14. 手部・指部脱臼
7. Bennett 骨折	15. まとめ（臨床の現場でよく用いられている治療法と国家試験によく出題されるポイントを解説する）
8. 中手骨頸部骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各外傷の受傷機転や症状、治療法、合併症を運動器疾患ワークブックを中心に学習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷の評価法や、整復法および固定法を実践し、その目的と意義を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（レポート）の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②運動器疾患ワークブック 医歯薬出版
- ③必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス、指輪、ネックレス）は着用しないこと。
- ④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

外傷予防トレーニング指導実習Ⅰ		実習	准教授 牛島 詳力	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371203	

1. 授業のねらい・概要

スポーツなど身体活動が原因で発生する外傷について、原因となる運動力学や病態生理学的知識を中心に、柔道整復師が取り扱うことができる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷からのリハビリテーション、ならびに再受傷を予防するための運動療法のプログラム作成のための基礎的な知識を身に着ける。

2. 授業の進め方

テキストで紹介される予防法について「なぜ、それを行うのか？」が理解できるよう、外傷予防の様々な要素を項目別に、講義とその項目を理解するための基本的な実技実習にて学ぶ。理解の定着を図る目的で中間試験も課する。

3. 授業計画

1. 外傷の原因（組織にかかるストレス）	9. 位置覚・運動覚と外傷予防
2. 外傷発生の予防における注意点	10. 筋の能力と外傷予防1（筋力・筋持久力）
3. 再受傷の予防における注意点	11. 筋の能力と外傷予防2（筋パワー）
4. 外傷予防におけるスポーツ心理学	12. Open & Closed Kinetic Chain
5. 組織の修復課程と外傷予防	13. バランス能力と外傷予防
6. 関節可動域と外傷予防1（ストレッチング）	14. 競技復帰時における外傷予防（中間試験2）
7. 関節可動域と外傷予防2（関節包内運動）	15. 全身持久力と外傷予防
8. 神経－筋協調と外傷予防（中間試験1）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義までに前回の授業までの内容について復習しておく、また基礎医学（解剖学・生理学・基礎運動学）知識の再確認も並行して復習しておくこと、これらの準備学習には2時間以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

外傷の発生ならびに再受傷を予防するプログラムがどのように構築されているか、を理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

中間試験1（25%）、中間試験2（25%）、定期試験（40%）、授業への取り組み姿勢（10%）の合計で評価する。「授業への取り組み姿勢」については教員の主観的な評価も含まれる。

8. テキスト・参考文献

テキスト：小林直行、高橋康輝（2019）競技者の外傷予防、医歯薬出版社

参考文献：Kisner & Collby（2016）最新運動療法大全Ⅰ、第6版、ガイアブックス社

Prentice（1999）Rehabilitation Techniques in Sports Medicine 3rd edition, McGraw-Hill

Houglum（2000）Therapeutic Exercise for Athletic Injuries, Human Kinetics

9. 受講上の留意事項

基礎医学科目（解剖学、生理学、柔道整復学総論）を履修しそれぞれ70点以上の評価を得ていることが望ましいが、そうでない場合も理解できるように説明する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。MLB 球団はじめ、国内外のスポーツチームにおける実務経験をもとに指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

外傷予防トレーニング指導実習Ⅱ		実習	准教授 牛島 詳力	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371204	

1. 授業のねらい・概要

スポーツなど身体活動が原因で発生する外傷について、外傷予防トレーニング実習Ⅰで学んだ知識をもとに、柔道整復師が取り扱うことができる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷からのリハビリテーション、ならびに再受傷を予防するための運動療法のプログラムとして、またスポーツ外傷を未然に防ぐためのエクササイズを部位別、項目別に学ぶ。

2. 授業の進め方

テキストで紹介される予防法をもとに、あらゆる種目、業種で起こる外傷に対し、予防のための様々な技術を部位別、項目別に実技実習にて学ぶ。実際にプログラムが作成できるようになるための演習としてレポートも課する。

3. 授業計画

1. 外傷予防プログラム作成 （レポート課題概要発表） 2. 頸部・上背部の外傷予防 3. 肩の外傷予防1（可動域の改善） 4. 肩の外傷予防2（動的安定化機構の改善） 5. 肘・前腕の外傷予防 6. 腰部外傷の予防1（可動域改善） 7. 腰部外傷の予防2（体幹の安定化） 8. 腰部外傷の予防3（協調と分離）	9. 下肢（股関節・膝関節）外傷の予防（可動域改善） 10. 下肢（股関節・膝関節）外傷の予防（筋の能力） 11. 機能的動作の分析法 12. 下肢の動的アライメント不良のリスク （レポート課題提出） 13. 下肢の動的アライメント改善の訓練 14. 下腿・足部の外傷予防法1（可動域・筋力） 15. 下腿・足部の外傷予防法2（バランス能力ほか）
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義までに外傷予防トレーニング実習Ⅰの内容について復習しておく、また基礎医学（解剖学・生理学・基礎運動学）知識の再確認も並行して復習しておくこと、これらの準備学習には2時間以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

外傷の発生ならびに再受傷を予防するための基本的なエクササイズメニューを作成できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

レポート課題（45%）、定期試験（45%）、授業への取り組み姿勢（10%）の合計で評価する。「授業への取り組み姿勢」については教員の主観的な評価も含まれる。

8. テキスト・参考文献

テキスト：小林直行、高橋康輝（2019）競技者の外傷予防、医歯薬出版社

参考文献：Kisner & Collby（2016）最新運動療法大全Ⅰ，第6版，ガイアブックス社

Kisner & Collby（2016）最新運動療法大全Ⅱ，第6版，ガイアブックス社

Prentice（1999）Rehabilitation Techniques in Sports Medicine 3rd edition, McGraw-Hill

Houglum（2000）Therapeutic Exercise for Athletic Injuries, Human Kinetics

Voss, Ionta & Myers（1985）Proprioceptive Neuromuscular Facilitation 3rd edition, Lippincott

Williams & Wilkins

9. 受講上の留意事項

外傷予防トレーニング実習Ⅰを履修し 70 点以上の評価を得ていることが望ましいが、そうでない場合も理解できるように説明する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。MLB 球団はじめ、国内外のスポーツチームにおける実務経験をもとに指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復実技Ⅳ（下肢①）		実技	非常勤講師 林 勇磨
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371301

1. 授業のねらい・概要

本講義では、臨床柔道整復学Ⅳで学んだ知識を実技で実践する。骨盤～足部の各外傷の評価法や整復法、固定法などを理論的に理解し、実践することで技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

教員による解説、デモンストレーションの後にグループ班で実技を実践し、繰り返し練習する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 股関節の触診 3. 骨盤骨骨折の整復固定 4. 大腿骨近位部の整復固定 5. 大腿骨骨幹部の整復固定 6. 大腿骨遠位部の整復固定 7. 膝関節の触診 膝蓋骨骨折の整復法 8. 膝関節の固定法①（シーネ固定）	9. 膝関節の固定法②（ギプス固定） 10. 下腿骨骨折の整復固定 11. 下腿骨疲労骨折の徒手検査、固定法 12. 足関節の触診、徒手検査 13. 果部骨折の整復固定（シーネ固定） 14. 果部骨折の整復固定（ギプス固定） 15. 実技テスト
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、終了後に回答のポイントおよび出題意図を解説する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷に対する整復、固定ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢(30%) 期末試験(70%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

柔道整復学・理論編 改訂第7版，全国柔道整復学校協会監修，南江堂，2022年
柔道整復学・実技編 改訂第2版，全国柔道整復学校協会監修，南江堂，2012年

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。
実習着の着用，必要なものについては事前に連絡するので必ず用意すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復実技Ⅴ（下肢②）		実技	非常勤講師 林 勇磨
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371302

1. 授業のねらい・概要

本講義では、臨床柔道整復学Ⅴで学んだ知識を実技で実践する。股関節～足部の各外傷の評価法や整復法、固定法などを理論的に理解し、実践することで技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

教員による解説、デモンストレーションの後にグループ班で実技を実践し、繰り返し練習する。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 膝蓋骨脱臼の整復固定
2. 踵骨骨折の整復固定	10. 膝関節脱臼の整復固定
3. 足根骨骨折の整復固定	11. 足関節脱臼骨折の整復固定
4. 中足骨骨折の整復固定	12. 足部の脱臼の整復固定
5. 足趾骨折の整復固定	13. 足趾脱臼の整復固定
6. 股関節の固定法	14. 下肢外傷の応用固定法
7. 股関節脱臼の整復法	15. 実技テスト
8. 膝関節の徒手検査	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、終了後に回答のポイントおよび出題意図を解説する。

6. 授業における学修の到達目標

各外傷に対する整復、固定ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢(30%) 期末試験(70%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

柔道整復学・理論編 改訂第7版, 全国柔道整復学校協会監修, 南江堂, 2022年
柔道整復学・実技編 改訂第2版, 全国柔道整復学校協会監修, 南江堂, 2012年

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用, 飲食, 帽子的着用は禁止とする。
実習着の着用, 必要なものについては事前に連絡するので必ず用意すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツリハビリテーションⅠ		実習	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371303

1. 授業のねらい・概要

スポーツリハビリテーションⅠでは、スポーツ傷害Ⅰで学んだ知識を実技で実践する。各傷害の評価法あるいは固定法、リハビリテーションなどの目的や意義を理解し実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. 股関節軟部組織損傷の評価法 2. 股関節軟部組織損傷のリハビリテーション①（単径部痛症候群） 3. 股関節軟部組織損傷のリハビリテーション②（その他の股関節疾患） 4. 大腿部筋損傷の評価法と応急処置 5. 大腿部筋損傷のリハビリテーション①（ハムストリングスの肉はなれ） 6. 大腿部筋損傷のリハビリテーション②（大腿直筋の肉はなれおよび筋挫傷） 7. 膝関節靭帯損傷の評価法と応急処置 8. 膝関節靭帯損傷のリハビリテーション①（前十字靭帯損傷）	9. 膝関節靭帯損傷のリハビリテーション②（内側側副靭帯損傷） 10. 下腿部筋損傷およびスポーツ傷害の評価法と応急処置 11. 下腿部筋損傷およびスポーツ傷害のリハビリテーション 12. アキレス腱断裂の評価法・応急処置・固定法 13. アキレス腱断裂のリハビリテーション 14. 足関節捻挫の評価法・応急処置・固定法 15. 足関節捻挫のリハビリテーション
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各外傷の受傷機転や症状、治療法、合併症を毎授業で配布した資料を中心に学習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（30%）、定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版 社團法人全国柔道整復学校協会 南江堂
- ②必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ボロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス、指輪、ネックレス）ははずすこと。

④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツリハビリテーションⅡ		実習	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371304

1. 授業のねらい・概要

スポーツリハビリテーションⅡでは、スポーツ傷害Ⅱで学んだ知識を実技で実践する。各傷害の評価法あるいは固定法、リハビリテーションなどの目的や意義を理解し実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 肩関節周囲の解剖と触診 3. 腱板断裂・上腕二頭筋腱損傷の評価法と治療法 4. スポーツ障害①（ベネット損傷，SLAP 損傷，インピンジメント症候群）の評価法，治療法 5. スポーツ障害②（リトルリーガー肩），その他の疾患（動揺性肩関節，肩関節周囲炎）の評価法と治療法 6. 肘関節周囲の解剖と触診 7. 肘関節内側側副靭帯損傷の評価法と治療法，肘関節後外側回旋不安定症の評価法 8. 野球肘の評価法	9. 野球肘の治療法 10. 上腕骨外側上顆炎・内側上顆炎の評価法と治療法 11. 手関節周囲の解剖と触診 12. TFCC 損傷，手根不安定症，ド・ケルバン病の評価法と治療法 13. ステナール損傷の評価法，その他の靭帯損傷とロックリングフィンガーの評価法と治療法 14. 絞扼性神経障害（肩甲部，上肢部）の評価法と治療法 15. まとめ
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を，配布プリントやノートを使って復習しておく（1 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また，本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100％）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂 7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス，指輪，ネックレス）ははずすこと。
- ④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復演習Ⅲ		講義	非常勤講師 西川 晃子
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371401

1. 授業のねらい・概要

私たちが問題なく安全に日々を送ることができるのは何故だろうか。「キレイ」や「汚い」とは一体何か。公衆衛生を理解することにより答えは見えてくる。

本授業では解剖生理学を基礎とした上で健康の保持・増進をはかり、疾病を予防していくことを学ぶ。そして、医療従事者として必要な感染症や消毒、保健等の基本的知識を身につけ、地域社会において衛生的に施術を実施できるよう取り組んでいく。

2. 授業の進め方

授業では配布資料とスライドを活用する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 健康の概念	9. 生活環境・食品衛生活動
2. 疾病予防と健康管理	10. 母子保健
3. 感染症の予防（感染症成立の条件、感染症の種類）	11. 学校保健
4. 感染症の予防（感染症の予防対策）	12. 産業保健
5. 消毒	13. 成人・高齢者保健
6. 環境衛生（環境の種類、環境問題、環境の把握・評価）	14. 地域保健と国際保健
7. 環境衛生（物理的・化学的・生物的環境要因）	15. 医療の倫理と安全の確保
8. 生活環境・食品衛生活動	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布した資料に目を通し、わからない単語があれば事前に調べておくこと（およそ 30 分間）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

「公衆衛生学」の必要性を確認する。

健康や地域保健等の理解を深める。

医療従事者としての基礎的な知識ならびに国家試験に対応した知識を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『衛生学・公衆衛生学 改訂第6版』, 南江堂, 2015年
その他、授業内容に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

授業開始5分前には着席しておくこと。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復演習Ⅳ		講義	講師 小向 啓介
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371402

1. 授業のねらい・概要

この科目は柔道整復師国家試験対策の授業を行う。柔道整復学下肢の骨折、脱臼の範囲を対象として、国家試験でよく出題されている内容やキーワードを説明する。また国家試験の傾向をつかみ、問題をしっかり解けるようになることをねらいとする。

2. 授業の進め方

Power Point を用いたスライドによる授業を行う。毎講義ごとのテーマに合わせて国家試験問題や模擬問題を解きながらその解説も行う。

3. 授業計画

1. 骨盤骨折	9. 足根骨骨折
2. 大腿骨近位端部骨折	10. 中足骨・足趾骨骨折
3. 大腿骨骨幹部骨折	11. 股関節脱臼
4. 大腿骨遠位端部骨折	12. 膝蓋骨脱臼
5. 膝蓋骨骨折	13. 膝関節脱臼
6. 下腿骨近位端部骨折	14. 足部および足趾部の脱臼
7. 下腿骨骨幹部骨折	15. 授業振り返り
8. 下腿骨遠位端部骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容である下肢外傷の受傷機転や症状、整復法、固定法、合併症について教科書を用いて予習し、疑問点や不明点などを明確にしておく。この準備学修には2 時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後もしくは授業内で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

国家試験でよく出題されているキーワードを把握し、内容を理解しながら問題を解き、解説できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業内で行う小テストにて評価する（100％）。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7 版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②柔道整復学・実技編改訂2 版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ③絶対出る！柔道整復師国家試験重要問題 柔道整復学下肢・総論編 医歯薬出版
- ④その他、解剖学や生理学、運動学、整形外科学、一般臨床医学、外科学の教科書も使用する場合があるので授業時に持参すると良い。
- ⑤必要に応じて、各項目の重要ポイントは配布する補足資料にて理解を深めてもらう。

9. 受講上の留意事項

私語およびスマートフォンの使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。

10. 実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、整形外科、整骨院、トレーナー業務における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

トレーニング演習 I		講義	准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371403

1. 授業のねらい・概要

この科目は、柔道整復師国家試験対策の授業を行う。柔道整復学上肢の骨折、脱臼の範囲を対象として、国家試験でよく出題されている内容やキーワードを説明する。また国家試験の傾向をつかみ、問題をしっかり解けるようになることをねらいとする。

2. 授業の進め方

Power Point を用いたスライドによる授業を行う。毎講義ごとのテーマに合わせて国家試験問題を解きながら、その解説も行う。

3. 授業計画

1. 鎖骨の骨折と肩甲骨骨折	9. 手根骨骨折
2. 上腕骨近位端部骨折	10. 中手骨骨折
3. 上腕骨骨幹部骨折	11. 手指部骨折
4. 上腕骨遠位端部骨折①（顆上骨折）	12. 肩部の脱臼
5. 上腕骨遠位端部骨折②（外顆および内側上顆骨折）	13. 肘部の脱臼
6. 前腕骨近位端部骨折・前腕骨骨幹部骨折	14. 手部の脱臼
7. 前腕骨遠位端部骨折①（コーレス骨折）	15. まとめ（問題演習）
8. 前腕骨遠位端部骨折②（スミス骨折など）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容である上肢外傷の受傷機転や症状、整復法、固定法、合併症についてテキストを用いて予習し、疑問点などを明確にしておくこと（1～2時間程度）。

②毎講義終了後はテキストの予想問題などを解答し、必ず復習すること（2時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

国家試験でよく出題されているキーワードを理解し、問題を解いて解説できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験を実施し評価する（100％）。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂6版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ③絶対出る！柔道整復師国家試験重要問題 柔道整復学下肢・総論編 医歯薬出版
- ③必要に応じて各項目の重要ポイントを補足資料として配布する。

9. 受講上の留意事項

私語およびスマートホンの使用、飲食、帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

トレーニング演習Ⅱ		演習	講師 山本 雅貴
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371404

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師国家試験で出題される「柔道整復理論総論」および「リハビリテーション医学」の理解を深めることを目的とする。そのため、国家試験の出題率の高い項目や学習のポイントを理解し、キーワードとなる重要語句の確認と暗記すべき項目の整理を行う。

2. 授業の進め方

関連する科目として「柔道整復学総論Ⅰ・Ⅱ」「リハビリテーション医学」で学んだ学習内容から、特に国家試験での出題傾向の高い項目を取り上げて授業を実施する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 骨の損傷①（分類，症状）	8. リハビリテーションの理念・対象と障害者の実態・障害の階層とアプローチ
2. 骨の損傷②（併発症，続発症，後遺症）	9. リハビリテーション評価学
3. 骨の損傷③（小児骨折と高齢者骨折，予後など）	10. リハビリテーション障害学
4. 関節の損傷①（脱臼の分類，症状，合併症）	11. リハビリテーション治療学
5. 関節の損傷②（靱帯損傷，筋損傷など）	12. リハビリテーション医学の関連職種と治療技術
6. 治療法①（骨折および脱臼の整復法，固定法）	13. 高齢者のリハビリテーション
7. 治療法②（後療法）	14. 運動器のリハビリテーション
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布する国家試験の過去問題を復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では，国家試験で出題率の高いキーワードを理解し，国家試験の合格基準を満たす知識レベルに到達することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

柔道整復学・理論編改訂6版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂

リハビリテーション医学 改訂第4版，全校柔道整復学校協会監修，南江堂

必要に応じて各項目の重要ポイントを補足資料として配布する。

9. 受講上の留意事項

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，整形外科における臨床経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床実習Ⅰ		実習	教授 川崎一朗 教授 西川 彰 准教授 牛島詳力 准教授 伊藤 新 講師 小向 啓介 講師 山本 雅貴	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目		科目ナンバリング	12381301

1. 授業のねらい・概要

臨床実習Ⅰは、大学付属の臨床実習施設において、担当教員の指示の下、これまでに修得した知識を生かし、質の高い治療を提供するために必要な各疾患の評価法などについての過程を経験する。また、選手との接し方を学び、コミュニケーションの重要性や、医療人としての自覚・モチベーションを高めることを目的とする。

2. 授業の進め方

担当教員と行動を共にしながら参加観察し、術者の視点から患者の状態について考察する。事前にガイダンスを行い、臨床実習カルテの書き方や、医療機器の種類、効果等について説明する。また、その日に来院した患者の主訴や、受傷機転、治療方針、予後について意見交換を行い、レポート作成し理解を深める。

3. 授業計画

1. ガイダンス	16. 中間報告
2. 臨床実習①（服装、容姿、態度、マナー、話し方）	17. 臨床実習⑮（徒手筋力検査：肩部）
3. 臨床実習②（業務範囲と医療機関との連携、問診法）	18. 臨床実習⑯（徒手筋力検査：肘部・手部）
4. 臨床実習③（施術録の記入法）	19. 臨床実習⑰（徒手筋力検査：体幹部）
5. 臨床実習④（視診）	20. 臨床実習⑱（徒手筋力検査：股部）
6. 臨床実習⑤（触診解剖：肩関節、上腕部）	21. 臨床実習⑲（徒手筋力検査：膝部・足部）
7. 臨床実習⑥（触診解剖：肘関節部、手関節部）	22. 臨床実習⑳（物理療法機器の操作法：温熱療法）
8. 臨床実習⑦（触診解剖：頸部、胸部、腰部）	23. 臨床実習㉑（物理療法機器の操作法：局所浴療法）
9. 臨床実習⑧（触診解剖：股関節部、大腿部）	24. 臨床実習㉒（物理療法機器の操作法：電気療法）
10. 臨床実習⑨（触診解剖：膝関節部）	25. 臨床実習㉓（物理療法機器：適応疾患と禁忌）
11. 臨床実習⑩（触診解剖：下腿部、足関節、足部）	26. 臨床実習㉔（応急処置：RICE 処置）
12. 臨床実習⑪（関節可動域測定：肩関節）	27. 臨床実習㉕（応急処置：固定法 上肢）
13. 臨床実習⑫（関節可動域測定：肘関節・手関節）	28. 臨床実習㉖（応急処置：固定法 体幹）
14. 臨床実習⑬（関節可動域測定：体幹）	29. 臨床実習㉗（応急処置：固定法 下肢）
15. 臨床実習⑭（関節可動域測定：股関節）	30. まとめと復習

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の実習内容を確認し、レポートにまとめること。また、前回の実習で理解できない内容に関しては、次回の実習まで、文献を用いて調査すること（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは実習を終えた日から3日以内に提出すること。担当教員が添削し次回の実習日までに返却する。

6. 授業における学修の到達目標

担当教員の指導の下、一連の評価から治療に至る過程を把握し経験することで理解できるようになる（見学-模倣-実施）。

7. 成績評価の方法・基準

実習内容（50％）、実習記録・レポート等（50％）の臨床実習により、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業前後に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①各自の課題を明確にした上で主体的に行う実習であるため、目的意識を持って取り組むこと。
- ②諸事情により臨床実習を欠席する場合は、事前に必ず担当教員に連絡すること。
- ③感染症を未然に予防のためにも、体調管理は徹底すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

臨床実習Ⅱ		実習	教授 川崎一朗 教授 西川 彰 准教授 牛島詳力 准教授 伊藤 新 講師 小向 啓介 講師 山本 雅貴	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12381302	

1. 授業のねらい・概要

臨床実習Ⅱは、大学付属の臨床実習施設において、担当教員の指示の下、これまでに修得した知識を生かし、質の高い治療を提供するために必要な各疾患に対する治療法について学ぶ。臨床実習Ⅰでは主に患者の評価法の実践とレポートにまとめて学んだが、臨床実習Ⅱでは、評価法から治療法までの過程を見学または経験する。さらに、各疾患の合併症や後遺症まで理解できるようにする。また、患者との接し方を学び、コミュニケーションの重要性や、医療人としての自覚・モチベーションを高めることを目的とする。

2. 授業の進め方

担当教員と行動を共にしながら参加観察し、術者の視点から選手の状態、治療方針について考察する。事前にガイダンスを行い、臨床実習カルテの書き方や、医療機器の種類、効果等について説明する。また、その日に来院した患者の主訴や、受傷機転、治療方針、予後について意見交換を行い、レポート作成する。臨床実習Ⅱでは、事例報告を設けており、代表的な疾患に対しての受傷機転、症状、評価法、治療法についてプレゼンテーションを行い、質疑応答し、理解を深める。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 臨床実習①（腱反射検査：上肢） 3. 臨床実習②（腱反射検査：下肢） 4. 臨床実習③（形態測定：四肢長） 5. 臨床実習④（形態測定：周径） 6. 臨床実習⑤（徒手検査法：肩部） 7. 臨床実習⑥（徒手検査法：肘部，手部） 8. 臨床実習⑦（徒手検査法：体幹部） 9. 臨床実習⑧（徒手検査法：股部，下腿部，足部） 10. 臨床実習⑨（徒手検査法：膝関節部） 11. 臨床実習⑩（模擬患者で腱反射検査，形態測定のトレーニングを行う） 12. 臨床実習⑪（模擬患者で形態測定，徒手検査法上肢のトレーニングを行う） 13. 臨床実習⑫（模擬患者で徒手検査法体幹のトレーニングを行う） 14. 臨床実習⑬（模擬患者で徒手検査法膝関節部のトレーニングを行う） 15. 臨床実習⑭（模擬患者で徒手検査法股部，下腿部，足部のトレーニングを行う）	16. 中間報告 17. 臨床実習⑮（超音波診断装置の画像評価：肩部） 18. 臨床実習⑯（超音波診断装置の画像評価：肘部） 19. 臨床実習⑰（超音波診断装置の画像評価：手部） 20. 臨床実習⑱（超音波診断装置の画像評価：体幹） 21. 臨床実習⑲（超音波診断装置の画像評価：大腿部） 22. 臨床実習⑳（超音波診断装置の画像評価：膝部） 23. 臨床実習㉑（超音波診断装置の画像評価：下腿部） 24. 臨床実習㉒（超音波診断装置の画像評価：足部） 25. 臨床実習㉓（事例報告：これまでの臨床例である患者の受傷機転や病態についてプレゼンテーションを行う） 26. 臨床実習㉔（事例報告：これまでの臨床例である患者の評価法についてプレゼンテーションを行う） 27. 臨床実習㉕（事例報告：これまでの臨床例である患者の固定法についてプレゼンテーションを行う） 28. 臨床実習㉖（事例報告：これまでの臨床例である患者のリハビリテーションについてプレゼンテーションを行う） 29. 臨床実習㉗（事例報告：これまでの臨床例である患者で今後再受傷しないための予防法についてプレゼンテーションを行う）
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の実習内容を確認し、レポートにまとめること。また、前回の実習で理解できない内容に関しては、次回の実習まで、文献を用いて調査すること（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは実習を終えた日から3日以内に提出すること。担当教員が添削し次回の実習日までに返却する。

6. 授業における学修の到達目標

担当教員の指導の下、一連の評価から治療に至る過程を把握し経験することで理解できるようになる（見学-模倣-実施）。

7. 成績評価の方法・基準

実習内容（50%）、実習記録・レポート等（50%）の臨床実習により、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業前後に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①各自の課題を明確にした上で主体的に行う実習であるため、目的意識を持って取り組むこと。
- ②諸事情により臨床実習を欠席する場合は、事前に必ず担当教員に連絡すること。
- ③感染症を未然に予防のためにも、体調管理は徹底すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。

臨床実習Ⅲ

2026年度

休講

臨床実習Ⅳ

2026年度

休講